

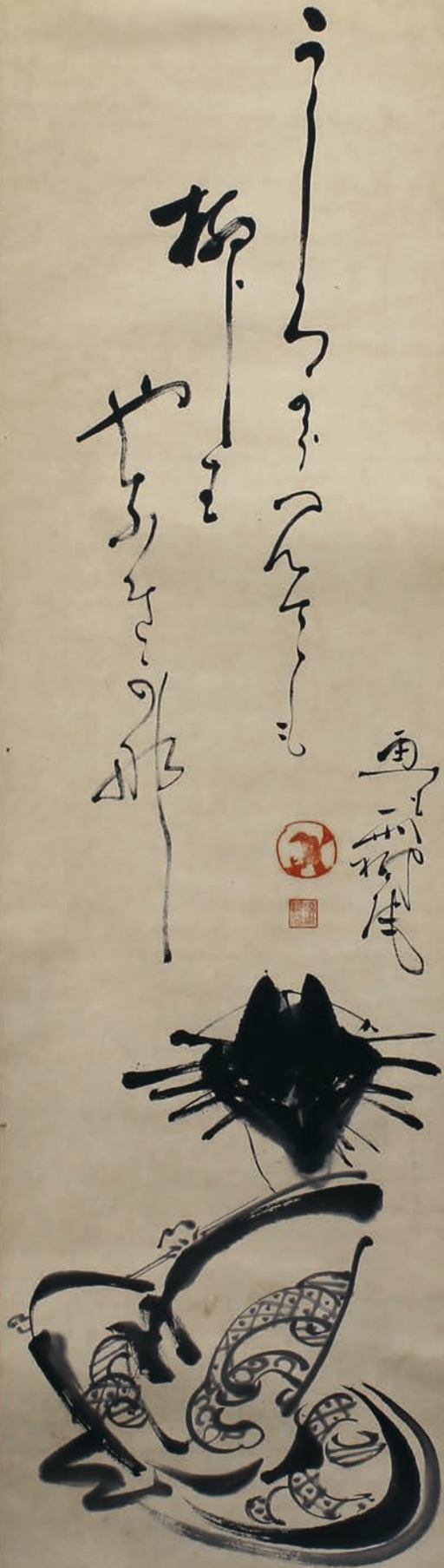
二〇二一年一月

通卷
144号

沼津市
史料館
明治通信

- 江原素六とその周辺59
 渋沢栄一と江原素六
- 企画展のご案内
- 古文書等整理実践講座について
- 次回企画展のお知らせ
- 休館のお知らせ

うしろから見ても
柳は
やなきかな
画も雨柳庵
印



宇田雨柳書画 花魁図
年代不詳
(当館蔵)

宇田雨柳（1872-1950）は、本名は宇田竜蔵（柳三郎）、「雨柳」は俳号、画号は「惶々狂夢」と号した。河鍋曉齋（1831-1889）が沼津・市場町の旧家に逗留していた時に、身の回りの世話をしていた宇田しんとの間にも生まれたと伝わる。画才は父親譲りで、銭湯の風景画などを手がけ、沼津の看板屋の草分けとなったとも言われており、この作品には「曉齋遺児」の印が押されている。

江原素六にとって渋沢栄一（一八四〇～一九三二）は二歳の年長だったが、ほぼ同世代といえる。二人の関係はいかなるものだったのだろうか。

過去の翌年に刊行された『江原素六先生伝』（結城礼一郎著、一九二三年）には、第一章として「名士の見たる江原先生」という部分があり、そこには渋沢栄一が執筆した「尋常一般の好々爺に非ず」という短い文章が収められている。それには、明治維新前に交際しなかつたこと、初めて会ったのは基督教青年会のこと、江原が訪問した際だったこと、特に宗教家としての江原に親しみを持っていったことなどが記されており、二人の関係性が見て取れる。

渋沢と江原はともに幕臣・静岡藩士であり、幕末の京都や明治初年の静岡藩において接していたとしても不思議ではないのであるが、実際には明治もかなり経ってから面識を持ったらしい。静岡藩において似たような事業を行った沼津商社会所と静岡商法会所を介しても、二人が出会うことはなかつたようである。

また、先の渋沢による文章には、「私の親戚の砂川といふ者が来て、非常に江原君の徳を称揚してゐたのを一再ならず耳にした」という一節がある。この「砂川」は「須永」の誤りであり、須永伝蔵（虎之輔・於兔之助・虎三郎、一八四二～一九〇四）のことであろう。須永は上野国新田郡成塚村（現群馬県太田市）の農民の子で、その母は武蔵国榛沢郡血洗島村（現埼玉県深谷市）の農民渋沢宗助の五女、すなわち栄一の母の妹であり、栄一にとっては従弟にあたる。また、実弟才三郎は栄一の妹婿となつて渋沢市郎を名乗っている。



須永伝蔵

『芦の湖分水史考 第一集
波瀾に満ちた須永伝蔵の生涯』所載

伝蔵は渋沢の勧誘で一橋家に仕え、やがて幕臣となり陸軍に所属、戊辰時には彰義隊の発起人の一人となり、その頭取並をつとめたほか、徳川慶喜の水戸隠棲に従つた高橋泥舟の指示により、鹿島において脱走した旧幕府軍の鎮撫にあつた（山崎有信『彰義隊戦史』、一九一〇年、隆文館）。静岡藩では遠州横須賀の三等勤番組に属したが（『渋沢栄一伝記資料』第二巻）、実際には静岡の渋沢宅に滞在したという。静岡を離れ帰郷した後は製茶技術などを学び、やがて渋沢が出資した耕牧舎の総支配人をつとめ、明治二年（一八七九）以来箱根仙石原で牧畜に従事した。同時期、江原は愛鷹山で西洋式の牧畜に取り組んでいたことから、同業のよしみで須永との関係が生じたのであろうか。耕牧舎は小田原・東京のほか沼津にも牛乳販売店を出店したとのことなので（須永君碑）、何らかの接点があつたのかもしれない。

あるいは、伝蔵が帰郷するに際し静岡藩の土籍を譲つた義弟須永信夫（信之助、水戸藩士加藤木賞三の長男、後年は栃木県官吏・宇都宮市会議員・宇都宮商業会議所庶務部長など、『彰義隊戦史』を参照）は、明治九年（一八七六）に浜松県会議員（第二大区一二小区Ⅱ見付宿他選出）や静岡県会議員・同幹事をつとめているので、江原も同じ静岡県会議員やその幹事の職にあつたことから、信夫を通じ伝蔵と顔見知りになつたのかもしれない。また、参同社という演説結社においても須永信夫と江原は、社員として顔を並べていた（静岡県史 資料編17近現代二）。ひよつとすると渋沢が言う「親戚の砂川」とは、伝蔵のことではなく信夫の可能性もある。

さて、条約改正にともなう内地雑居に備えて、明治三〇年（一八九七）に結成された民間の自主的研究団体である条約実施研究会は、官僚・政治家・学者・教育家・実業家など幅広い人々から構成され、江原や渋沢もそのメンバーになっていた。同年一月九日に開催されたその第四回研究会では、排外的思想を持つ参加者によって、キリスト教主義にもとづく学校では「宗教と教育の分離」をすべきであると強く主張された。江原はその主張とそれを支持する意見に対し憤然と立ち上がり、信仰心なくして真の国民道徳は維持できないと強く反駁した。江原の回想によれば、意外にも大倉喜八郎・益田孝といった実業家が江原に賛意を示し、渋沢も「私の会社も社員に宗教がなくなつたら破滅する」と言つて、江原に味方してくれたとのことである（沼津市明治史料館所蔵・江原素六原稿「宗教なき教育界」、同様の記述は江原著『急がば廻れ』47頁にもある）。資本家にとって、労働者が宗教心を持つことは良いことだとみなされたのである。渋沢が宗教家としての江原に親しみを感じていたと述べているのは、このような背景があつたからであろう。



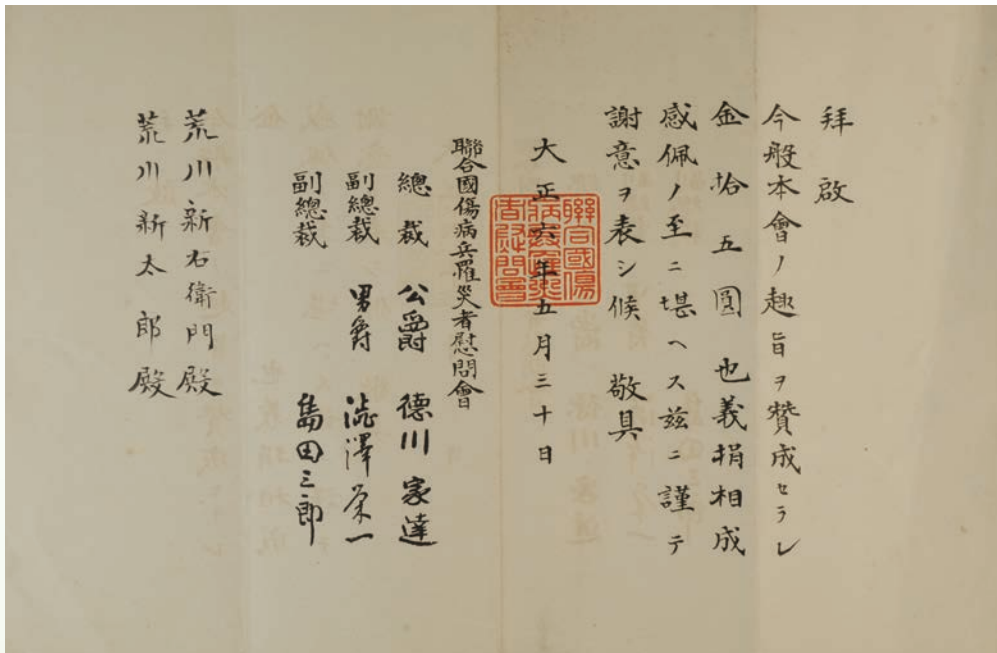
第8回世界日曜学校大会後援会の人々

(『第八回世界日曜学校大会記録』(1921年刊) 所載)

大正9年(1920)。中央の柱の右、前列には渋沢栄一と江原素六が隣り合って座る。柱の左は大隈重信・徳川家達。

明治四五年(一九一二)六月一日に麻布中学校を会場に開催された江原の古稀と貴族院議員勅選の祝賀会では、渋沢が祝辞を述べている(拙稿「井口省吾日記にみる同郷会とその活動」『静岡県近代史研究』第三五号)。渋沢はそ

の中に、「顔淵は政党に入つたり政治界に雄飛したりしなかつたけれども江原翁は其の事を遣りつゝ尚ほ顔淵たる行ひをして居られる、余人の企て及ばぬ事である」と述べたという(結城礼一郎『江原素六先生伝』)。名誉や栄達を一切求めず質素な生活に甘んじつつ、師の教えを実践し続けたという、孔子の門人顔淵を引き合いに出し、江原を褒めたのである。(樋口雄彦)



連合国傷病兵罹災者慰問会の義捐金感謝状

(当館蔵)

大正6年(1917)5月30日。同会の総裁は公爵徳川家達、副総裁は男爵渋沢栄一・島田三郎であり、はからずも旧幕府ゆかりの三人だった。同会はヨーロッパで進行中の第一次世界大戦の連合国側犠牲者を慰問するため同年1月に結成された組織で、徳川は貴族院議長、島田は衆議院議長の立場で就任していた。連合国側でありながら戦場から遠く離れていた日本が「同憂の誠を輸さん」との趣旨(新聞に広告掲載)で、広く国民から義捐金が募集された。ちなみに江原素六は、同年10月に結成された日本基督教青年会同盟の連合軍慰問部(後に軍隊慰問部と改称)の総委員長や理事長になっている(『基督者としての江原素六先生』)。

企画展のご案内

沼津市明治史料館令和2年度第1回企画展

新収資料の紹介



2020年12.12(土)～2021年1.31(日)

新たに収集した資料を公開します

沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1 TEL 055-923-3335
URL: <https://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/shisetsu/meiji>

開館時間 午前9時～午後4時30分
観覧料 大人200円・小人100円
(65歳以上の高齢者・中学生以下は無料・29名以上2割引)
休館日 12月14日、21日、26日、28～31日
1月1～4日、12日、18日、25日、29日
交通 JR沼津駅南口 富士急シティバス8番乗り場より
江原公園経由東郷「明治史料館前」バス停下車
*新型コロナウイルス感染拡大対策をお願いします。

現在、令和2年度第1回企画展「新収資料の紹介」を開催しています。前回平成25年度の新収資料展以降に収蔵された資料の中から、未公開の資料を中心にご紹介するものです。貴重な資料の数々を一堂に会してご覧いただけます。ぜひご来館ください。

こんな資料を展示しています



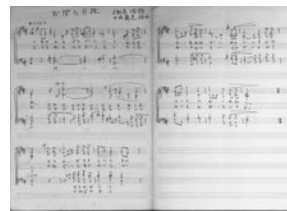
▲ 駿州興国寺城之図 (江戸時代)

忘れまい
沼津見立て ▶
天保10年(1839)



◀ 沼津宿本陣清水家伝来
備前少将より拝領の
御菓子入
(江戸時代)

▶ 中村義光直筆の楽譜



▲ (絵葉書)御急変ノ当日東郷元師及
各大官ノ沼津御用邸御見舞ノ光景

古文書等整理実践講座について

当館では、初の試みとして「古文書等整理実践講座」を開講しました。本年度は10月から3月まで(2月を除く)の毎月第3土曜日、9:30～11:30、全5回で開催中です。内容は博物館の重要な任務である資料の整理や保存などの技術を学び、実際に館蔵資料を整理したり、新収資料を分類したりします。原資料を取り扱うこととなりますので、学芸員の基本的な知識・所作を实践できる、なかなか他では経験できない講座になっています。令和3年度も開催する予定ですので、興味のある方はぜひお問い合わせください。



◀ 作業風景



◀ 第2収蔵庫

令和3年度古文書等整理実践講座募集について(予定)

日時：5月から3月(9月を除く)の毎月第3土曜日
9:30～11:30(全10回)

対象：沼津市に在住・在勤・在学の方で、ある程度
古文書の読める方 5人程度募集

申込：4月8日(木)9:00から 電話または直接
その他：『広報ぬまづ』4月1日号、当館のHPをご覧ください。

内容：資料の取り扱い方

紙資料の他、物品の取扱いについて

資料の分類・整理・保存について

中性紙封筒への入れ替え作業など

明治史料館所蔵の古文書の翻刻



◀ 中性紙で作られた資料整理用封筒

休館のお知らせ

2月1日(月)～12日(金)まで
展示替え作業のため休館します。

沼津市明治史料館通信 第144号

令和3年1月25日

編集・発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL 055-923-3335

FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社

次回企画展のお知らせ

令和3年2月13日(土)から5月9日(日)まで、令和2年度第2回企画展「マエハスメ!～沼津の体育・スポーツ史～」を開催します。

日本の「体育」は、実は沼津がその先駆けです。明治初期、徳川家静岡藩が開設した沼津兵学校での「体操」の授業開始は、西洋式体育が後に日本に根付く大きな一歩となりました。以後、沼津からは近代日本スポーツ史において決して小さくない足跡を残した人たちがたくさん出ましたし、現在も「スポーツの香りのする街・沼津」のキャッチフレーズとおり多くの市民が日常的にスポーツに親しんでいます。

今回の企画展では、日本における体育・スポーツの源流のひとつとなり発展してきた沼津の体育・スポーツの歩みをたどります。ぜひご観覧ください。



沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1 TEL 055-923-3335